

市立病院小児科の 取り組み

副院長 土屋 史郎

こんにちは。市立病院小児科の土屋です。私は昭和62年から28年以上草加市立病院に勤務しています。最近、昔診た赤ちゃんが大人になり、その子どもを診るということもあって感慨深いものがあります。

今回は小児医療の問題点と当科の取り組み、また「こども健康教室」について書かせていただきます。

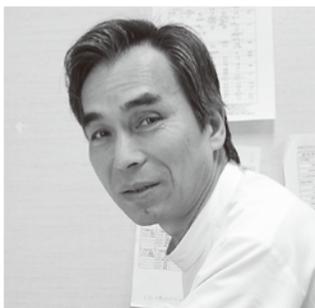


小児医療の問題点と 当科の取り組み

【小児救急】

小児救急の問題が叫ばれてからだいぶ経ちます。核家族化などによる夜間救急患者の増加、救急車たらい回し、小児科医不足、病院小児科の閉鎖、小児科医の自殺などの問題があり、平成15年には日本小児科学会誌も小児救急医療についての特集を組んでいました。当院も現在地に移転する前の旧市立病院の時代には常勤小児科医が3人しかおらず、曜日や時間帯によっては草加市内に夜間に小児を診ることのできる施設はありませんでした。

そうした中、昭和62年に保健センター内に内科・小児科の初期救急を毎日診る「草加市夜間急患診療所」が開設されました。同時に市立病院小児科も後方支援のため、その診療が終了する夜10時30分まで残るようになりました。しかしながら専門医指向などもあり夜間急患診療所に行かず当院小児科を救急受診する小児が増えてきました。市立病院が新しくなった平成16年から小児科医が5人になり、365日連日当直を開始しましたが、時間外小児科患者数が1万人を越えました。1人あたり月7〜8回日直または当直をする



土屋史郎 副院長

ことになり、当直明け後も夜まで帰ることができませんでした。この対策として少しずつ常勤小児科医を増やすとともに、平成24年4月には草加八潮医師会の協力により市立病院敷地内に「草加市子ども急病夜間クリニック」が開設され、365日準夜帯に診療が行われるようになりました。軽症の患者さんは同クリニックを受診するようになったため、当科は専門医療や入院医療に多くの力を集中することができるようになりました。

患者さん側から見れば、いつでも、すぐ近くで、平日の昼と同じ医療が、安く（無料）受けられるのが理想だと思いますが、それは「近所にある24時間営業のコンビニで、デパートと同じものをスーパーマーケットの料金で売れ」と言うことに似ていると思います。医療資源には限りがあり、日本だけでなく世界のどの国でもそれは不可能です。埼玉県では休日や夜間に、急病時の家庭での対処法や受診の必要性について、小児救急電話相談（#8000番）を行っていますので必要に応じて利用していただければと思います。

【心の問題】
体の健康に関しては予防接種の普及や治療法の進歩などにより、確実に病気の子どもや病気で入院する子どもは減っていますが、事故や心の問題は減っていません。平成25年度の不登校児は小学校で約2万4千人（276人に1人）、中学校で約9万5千人（37人に1人）です。高校でも中途退学者を含めると中学生以上になります。当院にも多くの子どもが心の

問題で受診します。当科でもそのような子ども達に対応するため平成14年から臨床心理士の方に来ていただき、心理カウンセリングを開始しました。今まで300人以上の子どもがカウンセリングを受けています。

【事故防止】

日本は50年以上、1〜15歳の死亡原因1位が不慮の事故であることを御存知でしょうか？日本は東南アジア・中東・アフリカなどと同様に子どもの事故死が多い国です。特に窒息（こんにやくゼリーなど）、溺水（風呂など）、交通事故（チャイルドシート未着用など）で死亡することが多く、当科ではこども健康教室で啓発を行っています。

【新生児医療】

埼玉県は人口あたりの産科医数が全国最低、小児科医数は下位1位2位を争っています。新生児集中治療室（NICU）の数も少なく、東京都に搬送される妊婦や新生児も少なくありません。当院では新生児治療室をつくり、低出生体重児にも対応していますが、重症児については他院にお願いしています。

【その他】

その他にも虐待・育児支援・予防接種・在宅医療・発達障害など様々な問題がありますが、開業の先生方や行政（市保健センター）、子育て支援センター、児童相談所）と協力して対応しています。

こども健康教室

当科では医師会の先生方と一

緒に子どもの病気に対応してきましたが、病気になってからでは遅いこともよくあります。そこで病気やけがの予防について市民の皆さんに知ってもらおうと平成18年から「こども健康教室」を始めました。年2回で開始しましたが、最近では年3回行い、この2月で25回を数えました。毎回20人前後の方が参加されています。最近ではボランティアや看護部などに手伝ってもらい託児を行っています。泣き通しの子どもがいるため、人数に制限を設けていることをご了承ください。

最近はいろいろな情報をインターネットで調べられるようになりましたが、どの情報が正しくて大切なかの判断は難しく、実際に専門家からまとまった話を聞いたり、質問できるといことは意義のあることだと思います。教室の内容は次のとおりです。

【心の話】

毎年2月頃に行っています。今までの演題名は「意欲ある子の育て方」「6歳までの育児とつけ」「眠りとメディアと心と身体」「子育て：つらいのは私だけ？」「発達障害児の行動パターンと対応のポイント」「どうしたらいいの？子どもとのかかわり方」「子どもの心の発達と親の関わり」「乳幼児を中心に」などで、大変な子育ての参考になればと考えています。講師は私その他、外部の方を招いて行っています。

【事故防止と心肺蘇生】

毎年6〜7月頃に「こどもの事故防止と心肺蘇生法」という



こども健康教室

題名で行っています。講義の前半は事故防止の話で、後半は乳児・小児の訓練用の人形を使用して胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの練習をしてもらっています。修了証は出していませんが、実際に体験できるので好評です。事故防止の話は時間の関係で主に死に至りやすい事故（窒息・溺水・交通事故）について解説しています。

【体の話】

毎年12月頃に行っています。「こどもの急性疾患」と題し、発熱・嘔吐・せきなどの対処法やインフルエンザについての話をすることが多いのですが、ご要望により「アレルギーの話」をすることもありました。

最後に

「子どもは国の宝」です。高齢化が進み高齢者に対する医療・介護はもちろん重要ですが、日本の将来・人類の将来を担う子ども達を健康（健全）に育てることは、さらに重要なことだと思います。草加で子育てをして良かったと思っていただけのように、さらに努力していきたいと思っています。